

ワールドスポーツ「サッカー」にかける!!



ワールドカップに日本が出場する今年、サッカー人気は日増しに高くなってきています。Jリーガーであり、ワールドカップ日本代表候補の榎崎正剛選手と、彼ら有力選手を輩出している奈良育英高校サッカー部監督の上間政彦先生に、サッカーの話や郷土奈良県、香芝市のことなどをお聞きしてみました。上間先生と榎崎選手はともに香芝市に在住。まさに足でつないだ師弟の間柄、サッカーの縁です。さて、お二人のサッカー談議はいかなるでしょう。

人との出会いがサッカーへの道

— 初めに上間先生と榎崎選手の出会いをお話いただけますか？
上間 七年前、トレーニングセンターで奈良県下の少年、中学生、高校生の有望な選手を集めました。榎崎君が中学校二年生のときです。中学生のゴールキーパー(GK)に比べてかきやつの音が聞こえてきました。ほんまに大きかったです。(笑) どういう風に伸びていくかわかりませんでした。可能性を感じました。
榎崎 その頃、身長は一八〇センチほどあったと思います。奈良県大会の決勝を見に行っただけです。そこで先生に声をかけられた。それが縁だったんじゃないかな。
— サッカーを始めたきっかけは？
榎崎 小学校四年生のときに香芝に引っ越してきたんです。それまではずっと野球をやっていました。本当はサッカーをやってみたかったんです。四年生からクラブに入れるようになるというので、ちょうど良いチャンスなので始めました。その頃は、サッカーの面白さなんて分からず、ただ友達がいっしょにできるということが続いたようなもんです。

— 最初に安心感があったのは事実です。県内のゲームでは彼がキーパーのときは得点されることはないという確信がありました。
— 上間先生は高校時代の三年間を指導者なぞったのですが、彼の練習ぶりはいかがでした？
上間 高校時代には技術や戦術は当然ですが、メンタル面を重視します。「人としてどう生きるのか」「責任感を持つ」とかそういうことをとにかくいいます。彼はキャプテンだったというところもあり、将来の日本代表になってほしい人材ですから、そういう意味ではチームの誰よりも苦しかったと思います。しかし、彼だけでなくプロに進んだり、代表になるような生徒はたくさんいました。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

— 最初からGKですか？GKのポジションをどのように思っていますか？
榎崎 その通りです。最初から、GK。多分、最初は下手だったから仲間からやられて。GKというポジションは、好きでやることする奴はいなかったですからね。でも、大変だけど大切なポジションだと思っています。それに、目立ちますからね。

— GKが目立つ時はチームは弱いと言いますが、(笑)難しいという点では特に意識はしていません。僕は身長がありますから、上の方にボールは得意なんです。どちらからかというところの方がいいですね。
— GKの難しさは？
榎崎 コフオムがちょっと派手で気になります。でも、(笑)難しいという点では特に意識はしていません。僕は身長がありますから、上の方にボールは得意なんです。どちらからかというところの方がいいですね。

思い出に残るのは、負けたゲームばかりで

— 高校に入ってから、一番思い出に残っているゲームは？
榎崎 心に残った試合はたくさんありますが、どっちかという勝負試合の方が、いつまでも記憶に鮮明です。インターハイの二回戦で、武南という全国上位のチームと当たって、僕のトンネルで一点をとり、その後追いついたんです。結局、延長でまた離されたというゲームがありました。上位に行けなかったこともありますが、悔しさを覚えません。今でも悔しいです。

— 私、私は特別にこのゲームというのはありませんが、榎崎君が出ているゲームは点を取ったゲームはありますか？
榎崎 それはもう厳しかったです。逃げ出したくなるくらい。ユース代表か、帰ってきた時をまたかかるとか。練習で殴られたことはあります。怒られるのは、技術的でなく精神的な問題なのでしょ。上間 技術のこととは、一生懸命にやればそれでいいんです。彼の場合、GKだから、(笑) 練習でも受け身になる。GKだけのトレーニングしていても、なかなか自分だけではできない。誰かが蹴つてくれないと練習にならないですから。

— プロになつてサッカーに対する考え方が変わりましたか？
榎崎 中学時代はほんとに興味程度にしか考えてなかったですね。高校へ入ってから上を目指せといわれていたこともあり、リーグのスタッフも見学に来ていて、どこかクラブの雰囲気も違つて練習にも力が入りました。リーグで三年間プレーしてきましたが、高校の方が練習は激しかったです。プロはすべて自分の責任ですから。だからしっかり学んで、自分で練習メニューを考えます。結果はすべて自分にはね返ってきます。
上間 榎崎君がいた時は、奈良育英高校は全国高校サッカー選手権で二位、国立競技場まで行きました。現在までの最高位です。しかし、結果よりもこのチームを作った、この子が育つていくということが大事で、結果としてそれが優勝へ導くこともあるかも知れません。

MASAHIKO UEMA

上間政彦 プロフィール

天理大学卒業後、奈良育英高校に勤務。サッカー部監督として、インターハイ7回、日本選手権6回、全日本ユース1回、国体3回出場、近畿大会優勝、全国大会3位などの輝かしい戦歴を持ち、また6人のJリーガーを輩出するなど、その指導力が高く評価されている。5人家族で香芝市狐井在住。

SEIGO NARAZAKI

榎崎正剛プロフィール

三和小学校4年からサッカーを始め、香芝中2年時に関西選抜選出。奈良育英高校では2年生から日本ユース代表に選出される。キャプテンとなった3年生にはインターハイ、国体、高校選手権に出場。高校選手権では3位となり、大会優秀選手として高校選抜に選出される。95年に横浜フリューゲルスに入団、ゴールキーパーとしてJリーグで活躍中。ワールドカップ日本代表として活躍が期待されている。

